

〔東雅禽十七〕鶴オホトリ略○中オホトリリとは大鳥也、即今俗にコフヅルとも、コフノトリともいふなり、鶴に似たる謂なるべし。

〔厄厨備用倭名本草水禽〕鶴 倭名抄ニオホトリ、多識篇ニカウノトリ、元升○向曰、カウトハ鶴ノ

本名也、後世俗ニ誤リテ此鳥ヲカウト云、考本草鶴ニ兩種アリ、鶴ニ似テ樹ニ巢ツクルモノハ白

鶴トス、黒色曲頸ノモノハ鳥鶴トス、白キモノヨシ、身ハ鶴ノ如シ、但シ頭ニ丹ナク項ニ鳥帶ナシ、

善ク唳ス、只喙ヲ以テ相撃チテ鳴ク、多クハ高木ニ巢アリ、其飛ブハ層霄ニ奮フ、旋遠テ陣ノ如シ、

天ニ仰ギ號鳴スレバ、必ズ雨アリ、其卵ヲ抱ハ影ヲ以テス、或云聲ヲ以テ聒之、禽經云、鶴三子ヲ生

ズレバ、一ハ鶴トナル、

〔本朝食鑑水禽〕鶴訓古 釋名、鴻本邦俗借用此字、鴻者今之菱喰也、漢語抄用鶴字、訓古布誤焉、源順曰、和名訓於保止利、

集解、鶴似白鶴而長頸頂不丹、翅黒而端羽黒、中羽表淡白有光比霜之布、地呼號霜降、而造箭羽、眼淡

青、目邊及背根色赤、背太長六七寸、而黒脚赤爪、指似鶴之爪、指尾純白色、常潛于翅羽而不見、能巢居

于高木及臺觀之上、其飛也奮於層霄、旋遠如陣、仰天號鳴、必主有雨、其鳴者非聲、以背相鳴、性無聲、舌

亦短小、或立于田澤河海之岩洲、以與鶴鶯爲伍、惟據其肉味粗硬羶臭、而人不欲捕之、

肉氣味甘冷無毒、或曰微温主治、中風、濕熱、脚氣、赤白痢疾、及久瘡者、宜用之、專調婦人諸病、

〔重修本草綱目啓蒙水禽〕鶴 コウ コウノトリ コノトリ 秋田 シリグロ詩經名ヘラハ

ズシ後筑久クバヒ大和コウヅル 一名鶴雀毛詩負金典籍旱群 冠雀 背雲共同

臯群名物瓦亭仙清異背竈事物竈君事物胸釜同上鳥尾鶴泉州老鶴盛京皂

賊廣大隱鳥藥鶴鶴陸疏墜羿經鷓雞 老藿 鸞鳥 藿兒 鳥童藿 灰鶴共同

大サ丹頂ニ類ス、全身白色、頂ニ紅色ナシ、背青褐色、目黄色、目ノメグリ黄赤色、脚ハ淡紅色ニシテ